

「北方海域技術研究委員会 平成 30 年度 定例会」を開催しました

日本技術士会 北海道本部 北方海域技術研究委員会

平成 30 年 10 月 5 日、釧路市にて「北方海域技術研究委員会 平成 30 年度 定例会」（主催：日本技術士会北海道本部 北方海域技術研究委員会、後援：北海道開発局 釧路開発建設部）を開催しました。定例会は港湾・漁港関係技術者の技術力向上を目指し、例年、道内各地で、現地視察と講演会の 2 段構えで開催しており、本年は 60 名超の参加を得ました。

まず現地視察として、釧路港の海上視察と港資料館見学を行いました。海上視察は、港湾業務艇「たんちょう」に乗船し、供用が間近となった大型バルク船対応の - 14m 岸壁など、西港区全体を視察しました。船上では釧路港湾事務所の飯田誠所長から、各埠頭の役割や主要な取扱貨物について説明を受けました。資料館見学では、釧路港湾事務所の大西様、青野様らのご案内をいただきながら、骨材試験用のフルイ、作業船や釧路港築港の歴史的史料などを視察しました。



写真-1 海上視察の様子

続いて釧路市生涯学習センター（まなぼっと）にて講演会を行いました。研究委員会の寺島代表の趣旨説明と釧路港湾事務所長の飯田誠氏の開会挨拶を皮切りに、ご講演 3 件の内容にて開催しました。

まず、釧路港湾事務所の早川篤課長から「釧路港における国際バルク戦略港湾としての整備について」と題し、海上視察を行った - 14m 岸壁の整備の思想・経緯や構造上の工夫等についてご講演いただきました。

次いで、北海道区水産研究所の境磨グループ長から「国際的な水産資源評価・資源管理」と題し、資源評価・資源管理の概要と、水産政策の改革として目標管理基準の設定に向かう日本の現状についてご講演いただきました。

最後に、釧路水産試験所の近田靖子主査から「道東海域におけるアサリ漁業への取り組みについて」と題し、アサリ漁獲量の推移と北海道、とくに釧根地域の優位性、また取組事例として根室湾中部漁協のアサリ漁場での取組み、をご講演いただきました。



写真-2 満員となった講演会会場

いずれの講演も、活発な質疑応答が交わされ、北方海域の今後の展望について考える有益な機会となりました。

最後に、ご多忙中、快くご講演をお引き受けいただいた各講師と、企画全体を通じて全面的にご協力いただいた北海道開発局 釧路開発建設部 釧路港湾事務所の皆様に心から御礼申し上げます。

